

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己                 | 外部  | 項目  | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|--------------------|-----|---|---|--|-------------------|
|                    |     |   | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>I. 理念に基づく運営</b> |     |   |   |  |                   |
| 1                  | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている                      | 毎日朝礼時や会議時行動規範の唱和をして日々の関わりを振り返りケアに反映している。                      | 理念、行動規範についてはホールの目につき易い所に掲示し、行動規範については毎朝の朝礼や職員会議の席上で唱和し、自分の行動を振り返り日々の支援に繋げている。開設以来の職員も多く勤務しており、チームワークの良さを発揮し、利用者の気持ちに立った支援に取り組んでいる。家族に対しては利用契約時に理念に沿った取り組みについて説明している。   |                   |
| 2                  | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している                      | コロナ禍の中で、地域の婦人会の方々が折り紙で作った飾りを届けて下さった。両ユニットに飾らせていただいている。        | 開設から6年目を迎え、散歩の時などに地域の人々と気軽に挨拶を交わす関係ができてきた。特に、地区の婦人会の方々からは折り紙の作品を頂いたり、今年は要らなくなった衣料品を利用して作った「ウエス」を沢山届けていただき感謝している。開設以来区費を納め地域の一員として活動しているが、現在、新型コロナ禍が続いたことから地域行事が殆ど中止状態で、再開されたら参加できる行事については参加したいという意向を持っている。                             |                   |
| 3                  |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている                    | 地域の方向けの勉強会等ははまだ実施出来ていない。                                      |  |                   |
| 4                  | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | コロナ禍のため2ヶ月に1回施設の現況報告を書面で行っている。<br>施設の状況報告や勉強会の報告等行い、ご意見頂いている。 | 通常だと2ヶ月に1回、偶数月に開催しているが、新型コロナ禍が長引き現在も書面での開催が続いている。利用者状況報告、事故・ヒヤリハット報告、活動報告、職員の現況報告等を書面に纏め、ホーム便り「グループホームまゆ篠ノ井」も付け、「ご意見用紙」と共に区長、民生委員には手渡しで届け、市高齢者活躍支援課、地域包括支援センターには郵送で届け意見や助言を頂きサービスの向上に繋げている。また、5月8日以降の新型コロナ5類移行を受け、参集して対面での会議開催も検討中である。 |                   |
| 5                  | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる            | 運営推進委員会にて、市高齢者活躍支援課及び地域包括支援センターの職員に取り組み状況等を書面で伝えている。          | 市高齢者活躍支援課とは様々な事柄について連絡を取り合い連携している。地域包括支援センターとは入居状況等を相談している。介護認定更新調査は市の調査員がホームに来訪し職員が対応して行っている。   |                   |

グループホームまゆ篠ノ井

| 自己 | 外部  | 項目  | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|-----|---|---|--|-------------------|
|    |     |   | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6  | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 日中施錠はしていない。外出したい時は自由に出て頂き、職員も一緒についていっている。<br>止めることはせず、外に出たいという思いを尊重している。    | 法人の方針として拘束のない支援に取り組んでいる。ユニットの出入口には鈴の音で出入りを知らせるようになっており、玄関の出入りについてはセンサー音で知らせるように工夫されている。帰宅願望のある利用者があるが、玄関先のベンチに腰掛け外の様子を見たり、職員と共に近くの神社まで散歩をして納得していただくようにしている。また、転倒、転落などの危惧がある方がおり、足元センサー使用の方が数名、人感センサー使用の方が若干いる。月1回、法人のリスクマネジメント委員会が開催されており、職員が参加しホームに持ち帰り、拘束に対する研修を行い意識を高め、拘束のない支援に取り組んでいる。 |                   |
| 7  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている           | 身体拘束と同様に定期的に研修を行っている。<br>(身体拘束研修は3カ月に1回)                                    |  |                   |
| 8  |     | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している       | 成年後見については、管理者が主に対応しているため他の職員はまだ理解していない。<br>今後成年後見については研修を予定している。            |  |                   |
| 9  |     | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                            | 特に転倒や誤嚥事故等予測される危険性については十分に書面を使い説明している。<br>また契約書については時間を取り、読み合わせを行うよう徹底している。 |  |                   |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                        | ご家族来所時ご意見を募り、出された意見については職員会議等で話し合い、反映させている。                                 | 新型コロナ禍の状況が長引いているが、家族との面会については、現在、マスク着用と検温をしていただき、玄関内で2名まで、15分を限度に実施している。5月8日以降の新型コロナ5類移行後、面会に見える家族が増えてきており、週1回から月に2・3回ほど来訪する家族がいる。また、ホームでの利用者一人ひとりの生活の様子はスマートフォンのLINEを活用し見ることができ、写真に一言添えて家族にお知らせしている。新型コロナ禍以降、家族会の開催が中断されたままとっているが、家族と話すの機会として「敬老会」等に家族会を開きたいという意向を持っている。                  |                   |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている   | 職員会議や日頃のミーティングで意見を聞くようにしている。  | 月1回月末の月曜日に職員会議を行い、会社からの連絡、カンファレンス、各係からの連絡、各種研修会、意見交換等を行い業務内容の充実に繋げている。人事考課制度があり、半年毎に自己評価を行い、本社が設けた評価項目に従い管理者が評価をし、個人面談も行ったの目標について話し合い、モチベーションアップに繋げている。  |                   |

グループホームまゆ篠ノ井

| 自己                           | 外部 | 項目   | 自己評価  | 外部評価 |                   |
|------------------------------|----|--|---|------|-------------------|
|                              |    |  | 実践状況  | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 12                           |    | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている      | 年2回の人事考課を行っている。<br>勤務時間中の休憩についても場所の確保をしている。<br>会社内で標準業務の実行に取り組んでいる。                       |      |                   |
| 13                           |    | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | 新入職員については理念、マナー接遇等の座学研修を行いその後研修センターにて基本的な介護技術を研修し、現場に配属される仕組みをとっている。                      |      |                   |
| 14                           |    | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 週1回営業活動を行い主に居宅のケアマネと話す機会を持っている。   |      |                   |
| <b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |    |  |   |      |                   |
| 15                           |    | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている           | 入居前には事前面談を行い、生活状況の把握に努めている。   |      |                   |
| 16                           |    | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている                      | ご家族にはグループホームがどんな施設か説明しどのような対応ができるか事前に時間をとり話し合いをしている。                                      |      |                   |
| 17                           |    | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている                  | 入居相談時、本人やご家族の思い、自宅での状況等確認しサービスにつなげるよう支援している。  |      |                   |
| 18                           |    | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                                  | 本人の思いや暮らし方などを尊重し、出来ることはやって頂き、やって頂いたら感謝の気持ちを表すようにしている。                                     |      |                   |
| 19                           |    | ○本人と共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている                   | 本人の小さな変化や日頃の状態等、こまめに報告、相談するよう心がけている。<br>またご家族にLINE登録していただき、ご希望のご家族様に週1回画像を添付しご様子をお伝えしている。 |      |                   |

| 自己                                 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
|                                    |      |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 20                                 | (8)  | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                                       | コロナ禍ということもあり、交流等ができていない。   | 新型コロナウイルスの状況が長引き、友人、知人との面会は自粛状態が続いている。そうした中、毎週日曜日の日課として家族と電話で話をして楽しんでいる方がいる。理美容については月1回、馴染みの美容師の来訪があり話をしながらカットしていただいている。また、年末には引き続き手作り年賀状を家族に郵送し喜ばれている。   |                   |
| 21                                 |      | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                                   | その日の状況により、利用者同士の関係がうまくいくよう職員が間に入るなど調整を行っている。                     |   |                   |
| 22                                 |      | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている                     | 長期入院で一度退去されたご家族より退院後の次の入居先を相談され自社の特定施設を紹介した。                     |   |                   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |  |  |   |                   |
| 23                                 | (9)  | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | 日々、全員の利用者とかかわることが出来るよう努めている。                                     | 意思表示の難しい利用者が若干名いるが、職員の問い掛けに対する表情、仕草より希望を受け止め支援に繋がっている。その他の多くの利用者は自分の意向を伝えられる状況である。職員は利用者一人ひとりの状況を把握しているが、入浴時等にはゆっくり話を伺い、想いを受け止めるようにしている。また、気づいた言動等は申し送りノートに纏め、出勤時に確認して日々の業務に役立っている。   |                   |
| 24                                 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                       | 入居時には必ず生活歴を家族や本人から聞き、把握している。                                     |   |                   |
| 25                                 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | その方の出来ること、出来そうなことを役割や日々の生活を通じて見つけることが出来るよう努めている。                 |   |                   |
| 26                                 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご本人の思いやご家族のご意見等を聞き、反映させるようにしている。ケアマネ任せではなく、職員で週1回カンファレンス等を行っている。 | 職員は1~2名の利用者を担当し、居室管理、誕生日会の準備、ケアプラン実績表を用いての日々のモニタリングを行っている。そうした中、家族から電話等で聞いた要望等も加味しカンファレンスの中で意見を出し合い、「自分の役割として出来る事はやっただき、嫌がる事ことはしない」を基本にプラン作成に繋がっている。入居時は暫定で1ヶ月間のプランを作成し様子を見て本プラン作成に繋げ、短期目標6ヶ月、長期目標1年で作成し、状態に変化が見られた時には随時の見直しを行い、一人ひとりに合った支援に繋がっている。 |                   |

グループホームまゆ篠ノ井

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|------|---|---|--|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 27 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                                     | 個別にケース記録及び食事や排泄等のチェック表を用意し毎日記録している。また日々の申し送りにて情報共有している。                       |  |                   |
| 28 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる                            | 緊急時や体調不良時、ご家族の状況に応じて通院介助等対応している。  |  |                   |
| 29 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                                      | コロナ禍という事もあり、地域との関わりが出来ていない。   |  |                   |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                  | 入居前の主治医の継続を原則的にお願いしている。また受診は基本的にはご家族に依頼している。<br>受診が困難な方は、協力医療機関に月1回往診して頂いている。 | 入居時に医療機関についての希望を伺い、ホームとしての取り組みを説明している。現在、入居前からのかかりつけ医利用の方が三分の一強おり、月1回から2・3ヶ月に1回、家族同行の下での受診で対応している。その他の方についてはホーム協力医の月1回の往診対応の方が三分の一、月1回の家族対応で協力医を受診する方が三分の一弱という状況である。また、毎週水曜日には法人の訪問看護師の来訪があり健康管理と合わせ医師との連携を図っている。歯科については必要に応じ協力歯科の往診で対応し、月1回歯科衛生士の来訪もあり、口の健康にも取り組んでいる。 |                   |
| 31 |      | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                          | 自社の訪問看護と契約し週1回の健康チェックの実施及び日頃の健康管理や医療面での相談助言対応を行ってもらっている。                      |  |                   |
| 32 |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 早期退院にむけて、入院直後から担当ケースワーカーと連携している。  |  |                   |

| 自己                               | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
|                                  |      |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 33                               | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化に伴う確認書を作成し、説明を行っている。<br>ご家族の意向を尊重し、訪問看護や医師と連携し取り組んでいる。  | 重度化、終末期に対する指針があり、利用契約時に説明して確認書にサインを頂いている。入浴や食事を摂ることが難しく、日々の生活を送ることが難しい状況で終末期を迎えた時には家族、医師、訪問看護師、ホーム職員で話し合いの場を設け、家族の意向を確認の上、医師の指示の下、改めて看取り同意書にサインを頂き医療行為を必要としない限りにおいて看取り支援に取り組んでいる。この1年以内に2名の方の看取りを行い、コロナ禍ではあったが家族には居室にて最期の時を共に過ごしていただくことができ感謝の言葉を頂いている。また、居室には利用者の好きだった音楽を流し、居室のドアは開けて他の人の声が聞こえるように気配りをしたという。看取り後にはホーム内で振り返りの機会を設け、次回に繋げるようにしている。 |                   |
| 34                               |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている   | 職員は定期的に消防署で行う心肺蘇生術の講習を受けることになっている。<br>また緊急時にはマニュアルに沿いながら対応している。  |  |                   |
| 35                               | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている   | 避難訓練については年2回行っている。地域の方の参加はコロナ禍ということもあり、今回も見送った。<br>水害時は、地区公民館の2階を一時的な避難場所として提供していただけることになっている。<br>風水害マニュアルが作成され、マニュアルに沿って水害想定避難訓練を行った。 | 年2回消防署へ連絡の上、防災訓練を行っている。火災を想定した避難訓練を行い、利用者全員がベランダより玄関先まで移動しての訓練を行っている。合わせて職員3～4名で利用者1名を毛布に載せ、床を滑らせて移動する訓練も実施している。また、防火管理者より消火器の使い方の説明を受け、徹底している。更に、水害を想定し、利用者の避難方法の確認や掃き出し口に土嚢袋を積んでの訓練を引き続き行っている。職員間の緊急連絡網についてはスマートフォンのLINEを用いて一斉配信訓練を行っている。  |                   |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |  |  |  |                   |
| 36                               | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている   | 相手の立場に立って、自分がされて嫌なことはしないよう心掛けている。また守秘義務についても管理を徹底している。   | 利用者の気持ちになって一人ひとりのペースに合わせ気持ち良く過ごしていただくように心掛け、「自分がされて嫌なことはしない」を基本に言葉遣いには特に気配りをしている。トイレ介助には気を使い、他の利用者にならないようお誘いすることを徹底している。呼び掛けは希望に合わせ、苗字か名前を「さん」付けで呼び掛けている。また、入室の際には「ノック」と「失礼します」の声掛けを忘れないようにしている。年2回、プライバシー保護に関する勉強会を行い意識を高め、支援に取り組んでいる。  |                   |
| 37                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている   | 意思表示が困難な方には時間を取り表情を読み取ったり、自己決定が出来るよう取り組んでいる。   |  |                   |
| 38                               |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している                                   | 基本的な業務の流れはあるが、例えば入浴について入りたい時に入れるよう努力している。  |  |                   |

グループホームまゆ篠ノ井

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|----|------|--|--|--|-------------------|
|    |      |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 39 |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                | 理美容については訪問美容を取り入れている。  |  |                   |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている   | 利用者に食べたいものを聞き献立に反映している。<br>また食事作りや盛り付け、片付け等も出来る方には積極的にやって頂いている。              | 食事の形態は、常食、一口大、キザミ、トロミ食と様々であるが、殆どの利用者は自力で食事ができる状況である。朝食と昼食については利用者の希望も加味しながら1週間分の献立を立てている。夕食については法人内の配食会社より「副食」のみの提供を受け、ご飯と汁物はホームで調理して提供している。そうした中、利用者の希望を聞き、週1回ほど「麺」の日を設けたり、誕生会には希望を聞き食べたい物をお出ししている。訪問調査の日にも誕生会が行われ、「マグロ丼」やおやつに「わらび餅」が提供されていた。 |                   |
| 41 |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている        | 食事量の把握は毎食行い、また食べやすいよう個々の利用者に食事形態を合わせている。<br>自社の配食サービスでペースト食なども対応可能。          |  |                   |
| 42 |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                 | 全員洗面所で行っている。またその方に合わせ口腔スポンジ等も使用している。<br>訪問歯科も入り口腔ケアの指導を受けている。                |  |                   |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | トイレで排泄するというを基本としている。またリハビリパンツやパット等もその方に合わせて検討して。また時間を見て誘導しトイレで排泄出来るよう支援している。 | 見守りを受け自立している方が半数強、一部介助の方が三分の一強、全介助の方が若干名となっている。夜間のみおむつ使用の方が数名という状況である。職員は利用者一人ひとりのパターンを把握しており、起床時、おやつ前、食事前、就寝前などの定時誘導をするとともに一人ひとりの様子を見てトイレにお誘いしている。排便については排泄記録を確認しながら3日間ない場合はコントロールを行い、お茶、スポーツドリンク、乳製品を中心に1日1,000cc以上の水分摂取に取り組み排泄に繋げている。       |                   |
| 44 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる                 | 毎朝牛乳の提供、昼食時にはヤクルトを提供している。また体操等からだを動かし便秘対策に取り組んでいる。                           |  |                   |

グループホームまゆ篠ノ井

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|----|------|---|--|--|-------------------|
|    |      |   | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている                        | 特に入浴表などは設けず、その方の入浴したい日や時間等希望に沿えるよう対応している。                        | 浴室は3方向から介助が出来る浴槽が完備されている。見守りを受け自立している方が半数強、一部介助の方が三分の一強、全介助の方が若干名という状況で、一人ひとりに合わせ支援している。入浴日は指定せずに希望の日に週2回の入浴を行っている。中には希望で週3回入浴される方もいる。入浴拒否の方がいるが、人や時間を変え対応している。3ヶ月に1回、入浴イベントを行い、全国の温泉地の入浴剤を選んでいただいたり、季節により「ゆず湯」「菖蒲湯」等でゆっくり入浴していただき、イベント入浴日には入浴後に「ノンアルコールビール」や「ソフトドリンク」等を楽しんでいただいている。 |                   |
| 46 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している   | 日中活動し夜は良く眠るということを大切に生活できるよう心がけている。また眠剤については極力使用しないことをご家族にも話している。 |  |                   |
| 47 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている  | 個々の服薬内容が分かるようケース毎にファイルしている。<br>1人1人薬の服用の方法も統一している。               |  |                   |
| 48 |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                             | 一人一人役割を持ちながら行って頂き、感謝の気持ちを伝えるようにしている。                             |  |                   |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナ禍ということもあり、外出等難しいが近隣の神社等には散歩に出かけている。昨年昔に通っていた小学校までドライブ外出を行った。  | 外出時、自力歩行の方と車いす使用の方がそれぞれ数名、見守りを受け自立している方が半数、歩行器使用の方が若干名という状況で、一人ひとりに合わせ支援している。新型コロナ禍が続き外出については難しい状況が続いているが、天気の良い日には近くの神社まで散歩に出掛けたり、桜の季節にはレジャーシートや飲み物を持ち花見を楽しんでいる。また、5月8日の新型コロナ5類移行後は少人数でドライブに出掛け、車窓より外の景色を眺め気分転換をしている。  |                   |
| 50 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している                             | 現在はコロナ禍のため特に外出行事等も行っていない。  |  |                   |
| 51 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている  | 好きな時にご家族や友人等に電話やラインビデオ通話をしている。また年賀状については書ける方は書いて頂き出すようにしている。     |  |                   |



グループホームまゆ篠ノ井

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|------|--|---|--|-------------------|
|    |      |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ホールについては、手作りのカレンダーや飾りつけを季節ごと利用者と一緒にしている。                        | 一日の大半を過ごすホールには南側の大きな窓から明るい陽差しが差し込み、また、ユニット間を仕切るパーテーションも開かれ、開放感漂う中で生活を送っている。ホール内は七夕、ひまわり等、季節に合わせた飾り付けがされており、壁には地域の婦人会より送られた「折り紙作品」や利用者手作りの「カレンダー」が飾られ、楽しく過ごせるようにしている。 |                   |
| 53 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | 玄関ホールには以前の入居者様作成の人形など置いている。またホールについてはスペースが限られているのでソファ等置くことは難しい。 |  |                   |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | 出来るだけ自宅にある使い慣れた馴染みのものを持ってきて頂くよう依頼している。                          | 各居室は清潔感が漂い、自分の第2の住み家として自由に過ごせるように配慮されている。持ち込みは自由で、家族と相談の上、使い慣れたテーブル、イス、衣装ケース、ハンガーラック、お仏壇、テレビ、趣味の本棚等が持ち込まれ、家族の写真等にも囲まれ、心地よく過ごせるようになっている。                              |                   |
| 55 |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している   | 本人の状態を把握し状態が変化した際にはカンファレンスを行い、不安感を取り除き自立支援につなげている。              |  |                   |